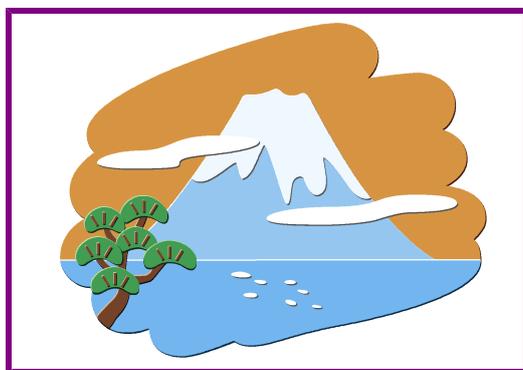


# めぐみイエス・キリスト教会

2018年1月14日(日)2018年第二主日礼拝  
週報「通算第389号」



## 2018年標題聖句

### 使徒の働き27章22節～26節

27:22 「しかし、今、お勧めします。元気を出しなさい。あなたがたのうち、いのちを失う者はひとりもありません。失われるのは船だけです。

27:23 昨夜、私の主で、私の仕えている神の御使いが、私の前に立って、

27:24 こう言いました。『恐れてはいけません。パウロ。あなたは必ずカイザルの前に立ちます。そして、神はあなたと同船している人々をみな、あなたにお与えになったのです。』

27:25 ですから、皆さん。元気を出しなさい。すべて私に告げられたとおりになると、私は神によって信じています。

27:26 私たちは必ず、どこかの島に打ち上げられます。」

主日礼拝毎週日曜日 午前10時～11時

聖書研究・祈禱会 毎週水曜日 午後6時15分～7時15分

牧師 鈴木 竜 実  
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◇◆◇2018年1月14日(第二主日礼拝)

午前9時50分～10時50分

司会 鈴木 竜実 牧師 奏楽 佐野 みゆきさん

◎礼拝プログラム

【前奏・祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌203「ああイエス君こよなき友」p. 304

【交読文】 No.40 詩篇第126篇 p. 911

【賛美Ⅱ】 新聖歌291「神の国と神の義」 p. 465

【使徒信条】

【主の祈り】

【先週のメッセージの概要】

【賛美Ⅲ】 オリジナルNo.14 「み言葉に帰ろう」 新曲

【聖書朗読】 使徒の働き27章27節～35節(新約p. 261下段)

【祈 禱】

【メッセージ】 《元気を出しなさい(PartⅡ)》 鈴木竜実師

【聖 餐 式】

【平和の祈り】

【賛美Ⅳ】 新聖歌165「栄光イエスにあれ」 p. 235

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝禱・後奏】

●ポイント1 なぜ彼らは元気がなかったのか？

※使徒の働き27章12節～21節「クレテの港ピニクスに向け」(新約p.260)

●ポイント2 皆が元気になる為に、パウロはまずどうしたか？

※使徒の働き27章21節～26節「パウロに与えられたみ言葉」(新約p.260)

※マタイの福音書4章1節～4節「悪魔との試みにおいて」(新約p.4下段)

4:1 さて、イエスは、悪魔の試みを受けるため、御霊に導かれて荒野に上って行かれた。

4:2 そして、四十日四十夜断食したあとで、空腹を覚えられた。

4:3 すると、試みる者が近づいて来て言った。「あなたが神の子なら、この石がパンになるように、命じなさい。」

4:4 イエスは答えて言われた。「『人はパンだけで生きるのではなく、神の口から出る一つ一つの言葉による。』と書いてある。」

●ポイント3 皆が元気になる為に、次にパウロはどうしたのか？

※マルコの福音書6章38節～42節「五千人の給食」 (新約p.71上段)

6:38 するとイエスは彼らに言われた。「パンはどれぐらいありますか。行って見て来なさい。」彼らは確かめて言った。「五つです。それと魚が二匹です。」

6:39 イエスは、みなを、それぞれ組にして青草の上にすわらせるよう、弟子たちにお命じになった。

6:40 そこで人々は、百人、五十人と固まって席に着いた。

6:41 するとイエスは、五つのパンと二匹の魚を取り、天を見上げて祝福を求め、パンを裂き、人々に配るように弟子たちに与えられた。また、二匹の魚もみなに分けられた。

6:42 人々はみな、食べて満腹した。

※使徒の働き27章35節～38節「異本における挿入句」(新約p.262上段)

27:35 こう言って、彼はパンを取り、一同の前で神に感謝をささげてから、それを裂いて(私たちにも分け与えて)食べ始めた。

27:36 そこで一同も元気づけられ、みなが食事をとった。

27:37 船にいた私たちは全部で二百七十六人であった。

27:38 十分食べてから、彼らは麦を海に投げ捨てて、船を軽くした。

## ◎先週のメッセージの概要【元気を出しなさい】

《2018年教会聖句は、「しかし、今お勧めします。元気を出しなさい。」です。

さて、このパウロの言葉は、絶体絶命の時に船に乗っている275人に語った言葉です。この時、弟子のルカとアリストアルコも共に同船していました。

なぜローマに行くことになったのか、それはパウロの長年の願いと祈りに神様が答えられたことと、カイザルに上訴したからです。この時のローマ皇帝は悪名高きネロでした。パウロと同行することになった百人隊長ユリアスと、その部下たち、数人の囚人と共に、ローマ行きの船に乗り込んだのです。

地中海は11月から3月までは、非常に荒れる為、航海は禁止されていましたが、やむを得ず11月最初にパウロたちは出航したと思われれます。

クレタ島で船を乗り換え、ローマに向かうのですが、その時、ユーラクロンと言う大嵐に出会います。船は十四日間漂流し、そしてついに、為す術も無く絶体絶命の時に、御使いがパウロに神のメッセージを届けます。

『恐れてはいけません。パウロ。あなたは必ずカイザルの前に立ちます。そして、神はあなたと同船している人々を皆、あなたにお与えになったのです。』

パウロは地中海の恐ろしさを知っていました。それは難破したのが三回もあり、また一昼夜海を漂ったこともあったからです。もし百人隊長ユリアスが、最初にパウロの言葉に耳を傾けていれば、十分に回避出来たことでした。

さて、なぜ神様はパウロをローマに行かせたのでしょうか。それは獄中において、4つの手紙を書かせる為でもありました。またローマにいたキリスト教徒たちを教育し、導く為でもあったのです。

『神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々の為には、神がすべてのことを働かせて益として下さることを、私たちは知っています。』

それだからこそ、キリスト者は恐れてはならないのです。なぜなら、まことの神様が共におられるからです。それだからこそ、元気を出すべきなのです。》

## ◎お知らせ

1. 次回の礼拝は、1月20日(土)午後6時から行ないます。1月21日(日)の礼拝は、鈴木師が聖書キリスト教会の教会大会に参加する為、お休みにします。
2. 次回聖書研究会・祈祷会は、1月17日(水)午後6時15分から行ないます。
1. 1月16日(火)鈴木師は市川朝禱会と代々木朝禱会に出席いたします。

